



# 損保ジャパン記念財団 News

●発行：財団法人損保ジャパン記念財団 〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-1-16 損保ジャパン新宿東ビル  
TEL03-5919-0711 FAX03-5919-0710 <http://www.sompo-japan.co.jp/foundation> Eメール: [fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp](mailto:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp)

## 謹んで新年のお慶びを申し上げます

当財団は、損保ジャパンの「社会貢献方針・3つの重点分野（美術・環境・福祉）」の中で福祉分野を主たる事業分野とする財団として、今年で設立27年目を迎えます。

急速に進む少子・高齢化社会における、高齢障害者や自閉症・不登校児・学習障害児の増加、障害者や難病者の増加などにより、社会福祉に対する社会のニーズも多様化し、これに対処するためわが国の社会福祉政策は根本的に大きな転換を迫られています。

これまでの国が主導する社会福祉から、民間・地域で支える社会福祉への転換が求められ、それに伴う法律や制度の改正が急ピッチで進む中、民間資金を民間活動へつなぐ助成財団の役割もこれまで以上に重視され、財団を含む公益法人制度の抜本的改革も進められています。

当財団では、損保ジャパンのCSR（企業の社会的責任）の一翼を担うべく、これらの社会環境やニーズの変化を的確に捉え、社会福祉の質的向上に資するため、「地域で福祉活動を実践する団体への支援」と「社会福祉の学問的水準向上を図る人材育成支援」を重点とし、福祉諸科学分野（保険を含む）の研究会・講演会・叢書出版事業とあわせ、当財団の目的・使命の実現に向け、今年も職員一同全力で取り組んでまいります。

本年も引き続きの温かいご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

損保ジャパン記念財団 役職員一同

## 「自動車購入費助成」の助成先決定！！

### ——西日本の10件に——

社会福祉助成の第2弾である障害者団体への「自動車購入費助成」が決定しました。今年度は西日本地区を対象に公募を実施し（募集期間：9月1日～16日）、応募総数146件の中から10月24日の選考委員会による厳正な審査を踏まえ、次の障害者福祉団体への助成が決定しました。助成金額は1件あたり100万円、総額1,000万円となります。贈呈式は損保ジャパンの該当地区支店において開催され、その様子は次ページ以降に掲載しています。

都道府県	団体名	代表者名
三重県	ケアサロンぬくもり	仲野 博司
京都府	特定非営利活動法人 ユースサポートネットとも	前田 ハル子
京都府	特定非営利活動法人 ゆいまある共同作業所	古田 久美子
大阪府	特定非営利活動法人 ハートフル都島	鳥居 和民
大阪府	社会福祉法人 能勢むらびと福祉会	中井 誠一
鳥取県	ふれあいセンターまつぼっくり	高木 春未
岡山県	社会福祉法人 愛徳福祉会	藤田 勉
福岡県	みよまる(△□○)福祉作業所	廣田 峰夫
佐賀県	佐賀みょうが塾Nファミリー	野田 理津子
鹿児島県	障害者総合支援センター こすも	松岡 勝廣

2003年(平成15年)12月19日

### 知的障害者ホームヘルプ

# 種子島に初の事業所

## NPO「すも」助成受け車導入

知的障害者のホームヘルプを行う特定非営利活動法人(NPO)「障害者支援センター・すも」が、中種子町納官を拠点に事業を始めた。種子島で同サービスを専門に提供する事業所は初めて。財団法人から事業に使う車両の購入費助成を受けることが決まり、十七日に西之表市で贈呈式が行われた。

「すも」は松岡勝廣(松岡さん)は、種子島の障の福祉車両購入費助成に代表(個人)ヘルパー三人 害者が地元で暮らせるよで運営。本年度スタートうな福祉サービスの受け助成を受ける十団体の一基つき、十一月から知的 ン。十月にNPOとして 障害者人に週一回、 証証された。今後、身体 身体介護や移動介護など のホームヘルプを行って いる。 障害者も対象とする予定 で、来年四月からデイス ービスを始める計画もあ っている。 損保ジャパン記念財団 費の贈呈式



贈呈式にはホームヘルプの利用者五人も参加

し、損保ジャパン鹿児島支店の鳥越茂樹支店長(左)から目録が贈られた。松岡さんは「利用者はこれまで車で外出する機会が少なかったようだ。買い物などの外出に車を有効に使いたい」と話した。

媒体名	日刊自動車新聞
掲載日	2004. 1. 6

## 自動車購入費助成 贈呈式



種子島のNPO「すも」に車両贈呈 損保ジャパン記念財団

【鹿児島】損害保険ジャパン記念財団(平野裕志理事長、東京都)は、このほど、鹿児島県種子島町のNPO法人の障害者総合支援センター「すも」(松岡勝廣代表)に自動車購入資金100万円を助成し、損害保険ジャパン鹿児島支店の鳥越茂樹支店長が同財団に代わり、4人乗り軽自動車



一台を贈呈した写真。主に知的障害者の在宅支援事業を手がける「すも」の松岡代表は「大変感謝している。送迎や野外活動に役立てたい」とあいさつした。同財団は77年に発足して以来、社会福祉分野などへの助成事業に取り組み、今年で26回目の助成事業となる。助成金の累計総額は1億3千万円。今年度事業は10件(1千万円)を助成し、九州地区では「みまもる福祉作業所」(廣田峰夫代表、福岡市南区)と「佐賀みまもる福祉作業所」(野田理恵子代表、佐賀県小城市)の2施設を含む3件だった。

2003年(平成15年)12月4日 木曜日

## 通所、運搬便利に

### 損保ジャパン 車いす送迎車購入を助成



竹井支店長(右)から目録を受け取る通所者

心身障害者小規模作業所「まつぼっくり」(境港市竹内町、高木春未代表)は、この日、損保ジャパン記念財団(平野裕志理事長)から、車いす送迎車の購入資金として百万円の助成を受けた。 現在十七人が通所。社とお礼を述べた。まつぼっくりは、これまで市社会福祉協議会の車を借りて送迎や荷物の運搬などをしてきた。この日、近くの老人福祉センターで行われた贈呈式では、損保ジャパン鳥取支店の竹井治久支店長が通所者の代表に目録を渡した。通所者代表が「車いすの人も楽に便利になる。大切にしたい」とまつぼっくりのみという。



福祉施設2団体へ自動車購入助成金  
 損保ジャパン記念財団  
 損保ジャパン記念財団  
 (平野浩志理事長)は4日、中央区の損保ジャパン大阪ビルで障害者福祉施設を運営する大阪府内の2団体に対して、自動車購入費助成金の贈呈式を行った。写真。  
 助成を受けたのは、NPO法人ハートフル都島(鳥居和民代表)と社会福祉法人能勢むらびと福祉会(中井誠一代表)で、両施設とも障害者の自立を支援している。14・5倍という難関だったが、これまでの実績や今後の活動への期待から選出さ



れた。むらびと福祉会の中井代表は「当施設では12人の知的障害者が作業を行っている。交通の便も悪く、自動車は不可欠だった。助成金は大変有難く、車を大切に使用して作業に役立てたい」と感謝の気持ちを述べた。同財団の自動車購入費助成は5回目で、今年度は西日本の障害者福祉施設を運営する10団体に総額1000万円を贈る。

# 自動車購入費を助成

損保ジャパン 全国の福祉団体に  
 記念財団

損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)は、12月4日午後1時半から損保ジャパン大阪ビル1階特別会議室で、大阪府下での「自動車購入費助成金」贈呈式を開催した。同財団では、今年7月に全国100カ所の障害者や高齢者福祉団体に対し、特定非営利活動法人(NPO法人)設立資金として各30万円、合計3000万円を助成。これに続き、西日本地区所在の障害者宅福祉活動を行っている10の団体に対し「自動車購入費助成」として1000万円の助成を実施したもの。

## 大阪府下団体への贈呈式開く

「がたい」と主権者側を代表してあいさつした。

小谷部長



大阪府下の贈呈式では、助成先である特定非営利活動法人ハートフル都島(鳥居和民代表)と大阪府都島区と、社会福祉法人能勢むらびと福祉会(中井誠一



贈呈式での受賞者らを囲んでの記念撮影の様子

理士長は大阪府能勢郡能勢町の2カ所の責任者や関係者らが出席した。はじめ、小谷有生・損保ジャパン近畿本部近畿総務部長が、社会貢献活動として設立した同記念財団の設立趣旨を述べ、平成11年度からの助成対象がNPO法人化設立資金助成と、障害者福祉団体に対する自動車購入費助成の二つに絞られたこと、その内容が変わったことについて「これまでの活動実績が評価されると同時に、今後の活躍が今まで以上に大きく期待されている。そのために、今回贈呈された自動車、今後の活動に一層役立てられればありがたい」と主権者側を代表してあいさつした。

「がたい」と主権者側を代表してあいさつした。障害者の人々を対象に施設を運営し、木工製品やピアスアクセサリー販売をしている社会福祉法人「能勢むらびと福祉会」の中井理士長と、工芸品や名刺の印刷、フリーマーケットや餅つき大会などで、地域交流を続けている特定非営利活動法人「ハートフル都島」の鳥居代表に、それぞれ自動車購入費助成として助成金100万円の決定通知書が、小谷部長から手渡された。

同財団の事業としては社会貢献活動の一翼を担うものとして設立された。基本財産は9億円。同財団の事業としては社会福祉助成のほか、社会福祉に関する優れた学術文献を表彰する「損保ジャパン記念財団賞」の贈呈、また社会福祉・社会保険・損害保険に関する研究助成や研究会・講演会の開催などの活動を行っている。

社会福祉助成は、財団設立以来、毎年実施しており今年で26回目。助成金の累計総額は、1億3000万円。社会福祉助成以外の事業を含む総事業費累計額は約16億円となっている。

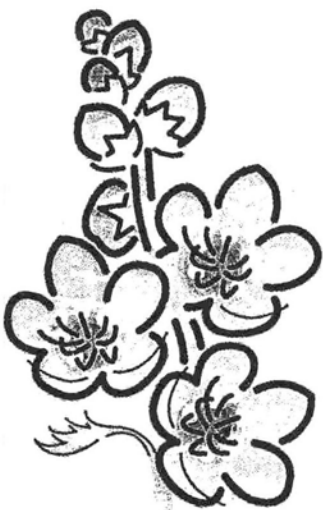
### 作業所に助成金贈る

損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)は16日、三日月町の小規模作業所「佐賀みよが塾NPOファミリー(野田理津子代表)」に、自動車購入費助成として百万円を贈った。写真。



た百四十六団体の中から、佐賀みよが塾を含め十団体を選出した。

贈呈式で、九州中央支店の村上克之支店長が「今後の活動に役立ててくださる」とあいさつ。助成決定通知書を受け取った野田代表は「多額の助成をいただき、大変ありがたい。勇気と希望をもらいました」とお礼を述べた。



# 障害者団体の活動を支援する 会議会合・国際交流費助成が決まりました

## ●財団法人 香川県手をつなぐ育成会 …… 100万円

(「第52回全日本手をつなぐ育成会全国大会」開催費用)

33万人以上の知的障害者(児)を支える全国組織としての「全日本手をつなぐ育成会」の全国大会が、11月29日～30日に高松市で開催されました。

大会では、今年新たにスタートした地域でサービスを提供する利用契約としての障害者「支援費制度」の充実を始め、知的障害者が住みたい地域で安心して暮らすことの出来る社会の構築を目指し、全体会議や分科会が活発に開催されました。

損保ジャパン高松支店・AIRジャパン香川支部と当財団が連携してこの大会を支援し、3300名を超える参加者による本大会は大きな成果をもって終了いたしました。

損保ジャパン記念財団(理事長・平野浩志損害保険ジャパン社長)とエアジャパン香川支部(松本満則支部長)は二十四日、知的障害者の家族らでつくる真手をつなぐ育成会(井村信行会長)に助成金計百五万円を贈った。助成金は、社会福祉貢献活動の一環。十一月二十九、三十の両日、同市玉藻町の県民ホールなどで開催される全日本手をつなぐ育成会全国大会の運営費に充てられる。高松市番町の県社会福祉総合センターで同日贈呈式があり、損保ジャパ

## 障害者家族らに105万円 損保ジャパンなど



九富副会長(右)に助成金を手渡す岡田支店長＝県社会福祉総合センター

ンの岡田広志高松支店長「十分に活用させていたから目録を受け取った。同会の九富副会長は「い」とお礼を述べた。

四 國 業 行 局  
2003年(平成15年)9月25日(木曜日)

## ●社会福祉法人 国際視覚障害者援護協会 …… 100万円

(「世界盲人連合アジア太平洋地域協議会総会」会議費用)

日本はアジア地区における障害者の施策や支援策の実施において、リーダー国としての役割が大きく期待されています。アジア太平洋地区の視覚障害者の日常生活問題、就労問題等においても日本からの積極的な情報発信が望まれています。

8月31日～9月4日に開催された今回の総会では、リーダー国としての役割責任をしっかりと果たすために、当財団の助成金をもって代表団に英語の話せる若手をメンバーに加えることが出来ました。



## NPO法人化を支援した団体の その後の活動も支援しています

### ●NPO法人無痛無汗症の会「トゥモロウ」 …… 100万円

(「無痛無汗症国際シンポジウム2003」開催費用)

あまり知られていない希少難病の一つに「無痛無汗症」があり、日本には世界で最多の患者がいることが判明しています。生まれつき痛みや温度感覚が無く、重篤な自傷、火傷、抜歯、関節破壊による歩行障害、汗をかけないための熱中症などに苦しみ、更に知的障害や多動傾向などの合併症にも苦しみます。わが国ではこれまでの研究で、その責任遺伝子が解明され、無痛無汗症の基礎、臨床、生活支援等について蓄積された情報を世界に発信していく必要から、NPO法人と国内外の医師や専門家・家族を中心に、第10回記念大会が国際シンポジウムとして、11月23日～14日に開催されました。当財団では、NPO法人設立に助成したこの団体の育成を図るためその活動を支援し、シンポジウムに先立って開催された「チャリティコンサート」では、損保ジャパン社員の皆さんのご支援もいただいています。



無痛無汗症国際シンポジウム  
2003年11月23日  
(国立成育医療センター会議室にて)

### ●NPO法人バリアフリーセンター・福祉ネット「ナナの家」 …50万円

(「KOMAE国際交流フェスティバル」開催費用)

この福祉団体も、NPO法人の設立時に支援した団体ですが、ある映画をきっかけに「自分たちだけが辛い思いをしているのではない、地球上には自分たちよりももっと厳しい環境で生活している人たちがいる」ことに気づき、自分たち障害者は支援されるばかりでなく、何か支援出来ることがあるのではないかと国際交流活動を開始しました。フィリピンやブータン、コンゴの障害者施設への支援や障害者を連れての作業所を訪問・交流などを行ってきています。この国際交流は、障害者や会員家族の日常活動への取り組みの拠り所となっており、当財団では団体活動の一層の広がりや発展を期待して支援を行いました。



福祉ネット「ナナの家」贈呈式  
2003年11月15日

# 福祉諸科学事業の活動報告

社会福祉諸科学事業では、学会や学者、福祉の実務家等が行う研究に対する助成や研究会の開催、ホットな話題の講演会・シンポジウムの開催、財団叢書の発行などの事業を行っています。

## ★研究助成の実施★

- 申請者：星 明男（ハーバード大学ロースクール在学）

研究題目：海上保険実務と海上運送法改正作業の相互作用についての理論的・実証的研究

研究期間：平成15年8月18日～平成17年7月31日

研究内容：現在、UNCITRAL（国際連合国際商取引法委員会）において、海上運送法の統一作業が進行中である。従来わが国では、海上運送法の規定と海上保険商品との間の動的な相互作用を理論的に研究したものが少ない。海上保険実務と海上運送法の改正作業が相互にどのように影響しあっているかということ、を、「法と経済学」の研究手法を用いて、同分野の第一人者であるJ. Mark Ramseyer 教授の指導の下で分析し、論文としてまとめ公表する。

助成額：100万円

- 申請者：田中 壽（元東洋大学社会学部教授）

研究題目：戦後福祉構造改革の原点

研究期間：平成15年4月1日～平成16年3月31日

研究内容：戦後日本の社会福祉政策がどのような背景と思想をもって策定され展開されたかを明らかにすることは、日本の社会福祉研究、社会福祉実践にとり重要な課題であり、大きな意義がある。本研究はGHQによる占領期の福祉政策と軍政に関し、福祉政策に関与した軍政担当者の考え方とそれらの政策が各地方軍政部でどのように展開されていたかを明らかにするものであり、膨大な資料を収集・整理し、占領期の資料を解説する出版物として刊行する。

助成額：100万円



平成15年度 福祉諸科学選考委員会  
2003年10月3日  
(損害保険ジャパン 43階第1特別食堂にて)

# ★シンポジウムの開催★

## 「ディーズ・マネジメント発展の可能性と課題」

損保ジャパン記念財団では、平成13年4月から慶應義塾大学大学院経営管理研究科の田中滋教授を座長として、「欧米のヘルスケアビジネス及びディーズ・マネジメント研究会」を開催（事務局：損保ジャパン総合研究所）してきました。

ディーズ・マネジメントは、医療の質の向上と医療費の適正コストを管理する新たな技術として、米国で研究が進み成果が現れつつある手法で、2年間の研究会の成果を損保ジャパン記念財団叢書 No.65「米国におけるディーズ・マネジメントの発展」と題して平成15年6月に刊行しました。

この叢書は、わが国ではまだ研究の進んでいないディーズ・マネジメントの導入報告書として、関係者から大きな反響を呼び、11月20日には損保ジャパン本社ビル2階大会議室においてシンポジウムを開催し、その第一報を発信いたしました。

当日は、行政・医療・製薬・健保等の関係者150名を越える方々にご参加いただき、当日の様子はマスコミにも取り上げられる等、今後のわが国におけるディーズ・マネジメントに対する関心の高さをうかがわせました。

なお、本研究会は今後も引き続き継続開催し、研究成果を発表してまいります。

平成15年9月25日

保険旬日新聞

損保ジャパン記念財団刊行

### 『米国におけるディーズ・マネジメントの発展』

損保ジャパン記念財団は、このたび、叢書No.65「米国におけるディーズ・マネジメントの発展」を刊行した。同財団では2001年度から2002年度にかけて慶應義塾大学大学院経営管理研究科の田中滋教授を座長とする「ヘルスケア・マネジメント研究会」を組織し、その中



米国のディーズ・マネジメントに関する研究を行った。今回の冊子は同研究会の成果の一部を書籍として取りまとめたものである。内容は次のとおり。

- ▽第1章 ディーズ・マネジメントの歴史・展開と概念
- ▽第2章 米国ヘルスケア市場におけるディーズ・マネジメントの現状
- ▽第3章 ディーズ・マネジメントの手法と効果
- ▽第4章 ディーズ・マネジメントのトランスミナル
- ▽第5章 ディーズ・マネジメントの今後の展望
- ▽第6章 米国におけるヘルスケアの特徴
- ▽第7章 ディーズ・マネジメントの発展

本叢書ご希望の方は損保ジャパン記念財団までご連絡下さい。

2003年(平成15年)12月11日(木曜日)

保険旬日新聞

(第3種郵便物認可)

### 損保ジャパン 記念シンポジウム開催

「米国におけるディーズ・マネジメントの発展」の刊行を記念して、11月20日、東京・有明コロシアムにて、ディーズ・マネジメント研究会のシンポジウムを開催しました。当日は、行政・医療・製薬・健保等の関係者150名を越える方々にご参加いただき、当日の様子はマスコミにも取り上げられる等、今後のわが国におけるディーズ・マネジメントに対する関心の高さをうかがわせました。

当日は、ディーズ・マネジメントの歴史・展開と概念、米国ヘルスケア市場におけるディーズ・マネジメントの現状、ディーズ・マネジメントの手法と効果、ディーズ・マネジメントのトランスミナル、ディーズ・マネジメントの今後の展望、米国におけるヘルスケアの特徴、ディーズ・マネジメントの発展の7つのセッションを開催しました。

### 田中氏(慶應大学教授)がコーディネーターに

この日は、田中氏(慶應大学教授)がコーディネーターを務めました。田中氏は、ディーズ・マネジメントの歴史・展開と概念、米国ヘルスケア市場におけるディーズ・マネジメントの現状、ディーズ・マネジメントの手法と効果、ディーズ・マネジメントのトランスミナル、ディーズ・マネジメントの今後の展望、米国におけるヘルスケアの特徴、ディーズ・マネジメントの発展の7つのセッションを司会しました。



当日は、田中氏(慶應大学教授)がコーディネーターを務めました。田中氏は、ディーズ・マネジメントの歴史・展開と概念、米国ヘルスケア市場におけるディーズ・マネジメントの現状、ディーズ・マネジメントの手法と効果、ディーズ・マネジメントのトランスミナル、ディーズ・マネジメントの今後の展望、米国におけるヘルスケアの特徴、ディーズ・マネジメントの発展の7つのセッションを司会しました。

# 社会福祉分野の人材育成を目指す 社会福祉の学術文献表彰事業 「損保ジャパン記念財団賞」の審査を開始しました

「損保ジャパン記念財団賞」（後援：日本社会福祉学会、日本地域福祉学会）は、わが国における社会福祉学の発展と研究者の人材育成を目的として、優れた学術文献を表彰する唯一の制度として今年で第5回目を迎えます。対象となるのは前年度に発表された社会福祉に関する文献で、日本社会福祉学会役員をはじめとする当財団が定めた「指定推薦者」の推薦を受けた文献となります。

本年度は、推薦された著書部門14件、論文部門6件を対象に、10月17日に第1回審査委員会が、12月19日には第2回目の審査委員会が開催されました。

本賞の知名度・ステータスが高まるなか審査委員会の責任も重みを増し、活発な議論・慎重な審査が重ねられた結果、著書部門5件、論文部門2件が最終審査の対象として選考されています。1月12日開催の第3回審査委員会で受賞候補文献が決定され、2月の臨時理事会で最終決定されます。受賞文献の表彰は3月25日に本社ビルで行う予定となっています。



左から、古川審査委員、  
大橋審査委員長、浅野委員

第2回の審査委員会風景  
平成15年12月13日  
(財団会議室にて)



左から、早川委員、福山委員、竹内委員

## 寄付金の御礼

平成15年12月9日、下記の方から暖かい寄付金をいただきました。ありがとうございました。当財団の事業資金として大切に活用させていただきます。

(平成15年12月30日現在)

損保ジャパンちきゅうくらぶ様 200万円

(ただし、平成15年度社会福祉助成事業「NPO法人設立資金」の中で、「障害児とその家族への支援事業」を行っている団体の法人設立資金として)